

テーマ：二次形式、ジョルダンの標準形、複素計量ベクトル空間

【二次形式】 ● $ax^2 + bxy + cy^2$ の形の式を 2 変数の二次形式という。

● $ax^2 + bxy + cy^2 = \begin{pmatrix} x & y \end{pmatrix} \begin{pmatrix} a & b/2 \\ b/2 & c \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$ と書けることに注意しよう。

● 実対称行列

$$A = \begin{pmatrix} a & b/2 \\ b/2 & c \end{pmatrix}$$

は回転の行列 P を用いて対角化することができた (12 月 4 日) :

$${}^tPAP = \begin{pmatrix} \lambda & 0 \\ 0 & \mu \end{pmatrix}$$

そこで、変換式

$$\begin{pmatrix} X \\ Y \end{pmatrix} = P^{-1} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$$

によって座標軸を回転させると、新しい座標では

$$ax^2 + bxy + cy^2 = \lambda X^2 + \mu Y^2$$

となる。

● たとえば、方程式 $ax^2 + bxy + cy^2 = 1$ で表される図形は

(1) $\lambda > 0, \mu > 0$ のときは楕円、 (2) $\lambda\mu < 0$ のときは双曲線

であることがわかる。

● 3 変数以上の二次形式についても同様の考察ができる。たとえば方程式 $ax^2 + by^2 + cz^2 + dxy + exz + fyz = 1$ で定義される図形は、実対称行列

$$A = \begin{pmatrix} a & d/2 & e/2 \\ d/2 & b & f/2 \\ e/2 & f/2 & c \end{pmatrix}$$

の固有値を α, β, γ とするとき、

(1) α, β, γ が全て正ならば楕円面

(2) $\alpha > 0, \beta > 0, \gamma < 0$ ならば一葉双曲面

(3) $\alpha > 0, \beta < 0, \gamma < 0$ ならば二葉双曲面

である。

【ジョルダンの標準形】 ● 対角線に同じ数 λ , そのひとつ上に 1 が並んだ (m 次) 正方行列

$$B(\lambda, m) = \begin{pmatrix} \lambda & 1 & & \\ & \ddots & \ddots & \\ & & \lambda & 1 \\ & & & \lambda \end{pmatrix} \quad (\text{他の成分は } 0)$$

をジョルダン・ブロックと言う。

◇ 任意の正方行列 A は、適当な正則行列 P を用いて、ジョルダン・ブロックを対角線に並べた行列に変換することができる :

$$P^{-1}AP = \begin{pmatrix} B_1 & & \\ & \ddots & \\ & & B_r \end{pmatrix}$$

($B_1 = B(\lambda_1, m_1), \dots, B_r = B(\lambda_r, m_r)$ はジョルダン・ブロック)

- ◇ $\lambda_1, \dots, \lambda_r$ は同じ数が入っていてもよい。
- この右辺の形を A の **ジョルダンの標準形** と呼ぶ。
- ◇ 標準形はジョルダン・ブロックの並べ方を除いて一意的に定まる。

【複素数の記号】 複素数 $\alpha = x + iy$ (x, y は実数) に対し、

- $\operatorname{Re}(\alpha) := x$ を α の実部、 $\operatorname{Im}(\alpha) := y$ を α の虚部 と言う。
- $\bar{\alpha} := x - iy$ を α の共役 (きょうやく) 複素数 と言う。
- 非負の実数 $|\alpha| := \sqrt{x^2 + y^2}$ を α の絶対値 と言う。
- 指数関数を $e^\alpha := e^x(\cos y + i \sin y)$ で定める。

【命題】 複素数 α, β について次が成り立つ。

- $$\begin{aligned} (1) \quad \overline{(\bar{\alpha})} &= \alpha & (2) \quad \overline{\alpha \pm \beta} &= \bar{\alpha} \pm \bar{\beta} & (3) \quad \overline{\alpha\beta} &= \bar{\alpha}\bar{\beta} & (4) \quad \overline{\left(\frac{\alpha}{\beta}\right)} &= \frac{(\bar{\alpha})}{(\bar{\beta})} \\ (5) \quad \alpha &= \bar{\alpha} \iff \alpha \text{ は実数} \\ (6) \quad |\bar{\alpha}| &= |\alpha| & (7) \quad |\alpha|^2 &= \alpha\bar{\alpha} & (8) \quad |\alpha\beta| &= |\alpha||\beta| \\ (9) \quad |\alpha| &= 0 \iff \alpha = 0 \\ (10) \quad e^{\alpha+\beta} &= e^\alpha e^\beta & (10) \quad |e^\alpha| &= e^{\operatorname{Re}(\alpha)} \\ (11) \quad \alpha \neq 0 &\implies \text{或る複素数 } \gamma \text{ が存在して } \alpha = e^\gamma \\ (13) \quad \alpha + \bar{\alpha} &= 2\operatorname{Re}(\alpha) \leq 2|\alpha| \end{aligned}$$

【標準内積の定義】 ● 複素数体上の n 次元数ベクトル空間 \mathbf{C}^n の標準内積を次の式で定義する：

$$(u, v) := \alpha_1 \bar{\beta}_1 + \dots + \alpha_n \bar{\beta}_n \quad \left(u = \begin{pmatrix} \alpha_1 \\ \vdots \\ \alpha_n \end{pmatrix}, v = \begin{pmatrix} \beta_1 \\ \vdots \\ \beta_n \end{pmatrix} \in \mathbf{C}^n \right).$$

◇ 標準内積は次の 4 つの性質を持っている。

- 1° $(u, v) = \overline{(v, u)}$
- 2° $(\gamma u, v) = \gamma (u, v), \quad (u, \gamma v) = \bar{\gamma} (u, v) \quad (\gamma \in \mathbf{C})$
- 3° $(u + u', v) = (u, v) + (u', v)$
- 4° (u, u) は実数で、 $(u, u) \geq 0$. 更に $(u, u) = 0 \iff u = 0$

【複素計量ベクトル空間】 ● 複素ベクトル空間 V の各 2 元 u, v に対して複素数 (u, v) が定義されていて上の 4 条件を満たすとき、 $(,)$ を V の内積と言ひ、 $(V, (,))$ を複素計量ベクトル空間と言う。

(簡単に V を複素計量ベクトル空間と言うこともある。)

- 複素計量ベクトル空間 V の元 u に対しても $\|u\| = \sqrt{(u, u)}$ によって u の長さ (ノルム) が定義される。
- $(u, v) = 0$ であるとき u と v は直交すると言う。

◇ 複素計量ベクトル空間においても、実計量ベクトル空間と同様に

$$\begin{cases} |(u, v)| \leq \|u\| \times \|v\| & (\text{シュヴァルツの不等式}) \\ \|u + v\| \leq \|u\| + \|v\| & (\text{三角不等式}) \end{cases}$$

が成り立つ。

- ◇ また、直交系・正規直交系・正規直交基底が考えられ、シュミットの直交化法も No.18 のプリントと全く同じ式で使える。
- ◇ 正規直交基底を用いて計量ベクトル空間に座標を入れると、内積を標準内積の式で計算することができる。

【ユニタリ行列・エルミート行列・正規行列】 $A = (\alpha_{ij})$ を n 次複素行列とする。

- $\bar{A} := (\bar{\alpha}_{ij})$ (成分を全て複素共役で置き換えたもの) と定める。
- $A^* := {}^t\bar{A}$ と定める。
- $AA^* = E$ が成り立つとき A をユニタリ行列と言う。
- $A^* = A$ が成り立つとき A をエルミート行列と言う。
- $A^*A = AA^*$ が成り立つとき A を正規行列と言う。
(ユニタリ行列、エルミート行列は正規行列である。)

【定理】 正規行列はユニタリ行列によって対角化可能である。すなわち、

$$A : \text{正規行列} \implies \exists P : \text{ユニタリ行列} \quad \text{s.t.} \quad P^{-1}AP = \text{対角行列}.$$

【命題】 次が成り立つ。ただし (\cdot, \cdot) は \mathbf{C}^n の標準内積、 $\gamma \in \mathbf{C}$, $\mathbf{u}, \mathbf{v} \in \mathbf{C}^n$, A, B は n 次複素行列とする。

- | | | |
|--|-------------------------------------|---|
| (1) $(A+B)^* = A^* + B^*$ | (2) $(AB)^* = B^*A^*$ | (3) $(A^*)^* = A$ |
| (4) $(\gamma A)^* = \bar{\gamma}(A^*)$ | (5) $\det(A^*) = \overline{\det A}$ | (6) $(A\mathbf{u}, \mathbf{v}) = (\mathbf{u}, A^*\mathbf{v})$ |
| (7) A がユニタリ行列ならば $ \det A = 1$ である。 | | |
| (8) エルミート行列の固有値は全て実数である。 | | |

未解答問題

No.6 : 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73

No.7 : 82, 84

No.8 : 86, 87, 95, 96, 97

No.9 : 101, 102, 103, 107, 108, 109, 110, 111

No.10 : 112, 115, 117, 119, 120, 121

No.11 : 122, 123

No.12 : 133, 134, 135, 136, 137, 138

No.13 : 139, 140, 141

No.14 : 154, 155, 156

No.15 : 157, 158, 159, 160, 161, 162, 163, 164, 165, 166, 167, 168

No.16 : 169, 170, 171, 172, 173, 174, 175, 176, 177, 178, 179, 180, 181, 182, 183

No.17 : 184, 185, 186, 187, 188, 189

No.18 : 197

No.19 : 199, 200, 201, 202, 203, 204, 205, 206, 207

No.20 : 212, 213, 214, 216, 217, 218, 219, 220, 221

No.21 : 224, 225, 226, 227, 228, 229, 230, 231, 233, 234, 235, 236, 237, 238, 239

No.22 : 240, 241, 242, 243, 244, 245, 246, 249, 250, 251, 252

No.23 : 253, 254, 255, 256, 257, 258, 259, 260, 261, 262, 263, 264, 265

No.24 : 266, 267, 270, 271, 272, 273, 274, 275, 276

No.25 : 279, 280, 284, 285